

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2018. 5  
No.297

### 「イナテック2018年度スタート」

イナテック2018年度は改革の始まりだと思っております。世間では「100年に一度という大転換期」とも言われていますが、まさしく、イナテックを変えていく大転換期です。

とは言うもの、お客様(AW様)との取引は引き続き最優先であり、不変です。大切なことは、売り上げを拡大しつつ、次のビジネスの“シェア”を拡大することです。つまり、今まで培った技術をベースにビジネスの柱を増やし、一社依存経営から脱却を図ることです。それがスタートする年なのです。

そして、イナテック全社員が一生安心して働ける職場を提供し、ご家族の皆さんが幸せになることが我々の目指すところです。

### 「イナテック創立80周年」

イナテックの改革は長期の目標を掲げています。イナテック創立80周年(2031年)をターゲットに夢を整理してみました。

イナテック創立80周年 グループ全体の「夢」

- ・活動拠点 8社
- ・グループ社員 800人+(ロボット人口200名)
- ・経常利益率 8%
- ・売上シェア AW様以外のシェア 50%

この数字(夢)は、決してムチャクチャな目標ではなく、「100年に一度」と言われる大転換期において、イメージのつけやすい“夢”だと思っております。

これから具体的に実行してまいります。ますますおもしろくなっていく2031年に向けて、みなさんのご協力をお願いいたします。

難しい時代には思考の三原則に立ち返る  
「人生と経営のヒント」 牛尾治朗 著より

日本は明治維新から七十年で敗戦を迎え、そこから奇しくも同じ七十年という月日を経て、この歴史的な大転換期に直面しています。

最初の七十年はイギリスから大いに学んで近代化に大成功を収めました。また戦後の七十年も、西側の盟主アメリカに学んで奇跡ともいえる復興と経済成長を果たしました。

そして今、イギリスはEUからの脱退を決断し、アメリカは新政権の下で大きくかわろうとしている。お手下としてきた両国が未知の領域に足を踏み入れようとする中、日本もこれらの七十年をいかに歩んでいくべきか、しっかりと見極めなければなりません。

こうした難しい時期には、やはり安岡正篤先生が説かれた「思考の三原則」に立ち返ることが大事だと思います。

第一 目先に捉われず長い目で見る

第二 一面的に見ないで多面的全面的に観察する

第三 枝葉末節にこだわることなく根本的に考察する

次なる七十年へのスタートとなるこの節目の時に、時代の超勢をしっかりと見極め、変化に機敏かつ柔軟に対応しなければなりません。

この安岡先生の思考を我がイナテックの仲間も実行する時だと思えます。

この「思考の三原則」をイナテックに当てはめると、

第一 マスコミの言う「2025年までに全ての

自動車EV(電気自動車)になってしまおう」かのような記事に騙されることなく、冷静に情報を集めることも大切だ。EVの時代がいずれ訪れるにしろ、残る部品は必ずある。

第二 イナテックの強みは「型製作から製造・切削までの一貫生産」ができることだ。自社の強みを多面的に捉えることによっても生き残る可能性は大である。

第三 EV化に向かうにしろ、2035年に

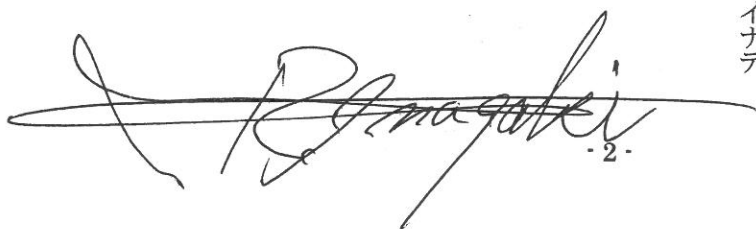
はM/T、A/Tがまだ75%残るという試算が日経の記事にも載っている。それまでにイナテックの得意な切削加工、歯切加工、熱処理、刃具の再研磨ドリル製作、試作部品加工、鑄造、型設計・製作などの技術を磨き、深化させれば、どの業界にもニーズがあるはずで、「三方よし」のビジネスは成立すると考える。

80周年に向けての夢の実現が、必ずイナテックの改革につながると信じております。

## 五九

熱鬧中着一冷眼、便省許多苦心。冷落處存一熱心、便得許多真趣味。

目まぐるしく多忙なときに、(のぼせ上らずに)、一点の冷静な目をすえておれば、それで多くの苦しい思いをしなくて済む。(これに反し)、不景気になったところで、(沈みこんだりせず)、一点の熱情を存しておれば、それで多くのまことの趣を味わうことができる。



R. Yamaguchi